



# なりた 2 c h

## 大会宣言 (案)

成田支部

8月29日、JR東労組成田支部は第40回定期大会を開催し、職場からの実践的な発言で大会を創り出し、職場と雇用を守り組織強化・拡大をめざす運動方針を満場一致で確認した。

日本は戦後80年を迎えた。今夏の参議院議員選挙では海外から極保守とされる政党が議席を伸ばすなどし、移民問題が顕著化しつつある現代で排他思想が広がっている。昨年には、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞したが、世界では核兵器廃絶に向けた議論が展開されるどころか、各国は抑止力の名のもとに核保有を正当化し、世界核弾頭数はいつしか減少から一転し増加している。有事の際は、JR東日本の国民保護業務計画によって武力への対処を業務指示されることとなる自らの立ち位置を捉えなおすことが必要である。

会社は新幹線を中心に多くの事象を発生させており、安全文化が薄らいでいる。500mを超えるオーバーランおよび速度超過、自走不能を伴う車両故障、二度の列車分離など枚挙に暇が無い程に危険な事象を発生させている。メディアや部内への説明は故障の原因にのみクローズアップした内容に留め、人手不足や安全投資不足等の問題へメスを入れない対応姿勢により背後要因の分析ができていないのが現状である。佐倉乗務UTでの、実設訓練の際に特殊信号発光機で停車後指令に連絡せずにそのまま運転再開をした事象では、役職・職制により事後対応や指導事項の周知方法に差異があり、「再発防止」の視点が欠落している。一方では各職場で下位職への責任追及体制が強まり、我が社が福知山線脱線事故発生当時のJR西日本に成り代わることが懸念される今こそ、利益至上主義と隠蔽体質を生む懲罰的教育に抗するたたかいが求められている。

そんな中で来年度開始となる、新たな人事賃金制度では定期昇給と年功序列型賃金の特性は大きく淘汰され、能力昇給と銘打った実質的な加給・減給制度が盛り込まれることとなる。昇給額は100円の差でも生涯に多大に影響が及ぶが、区分評価とすることで管理者の減給査定之苦痛を緩和させ、積極的に格差を生ませる仕組み創りであることを、我々は認識する必要がある。そのうえで、この先の面談や昇給通知の際など管理者に根拠や査定基準を求めることで区分評価を下すことへの重圧と責任を認識させていく必要がある。そして、JR東労組の組織力で査定の実態分析を行い組合員と持ち寄ることで、差別感と不公平感のない制度に高めるたたかいを創っていくとともに、評価主義で揺らぐJR東日本の安全を東労組から守っていかなければならない。

「被害者が加害者にされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」では、被害者の秋山さんは新規加入のち個人訴訟に立ち上がっている。このたたかいは自らの正当性を訴えるものだけでなく、労働者が当たり前かつ健全に働くための環境と職場を創るたたかいであることを全組合員で捉え、寄り添い行動していく。

経営陣はJR東日本をめまぐるしく変化させている。しかし、鉄道業の最大の職務は安全であり変化は許されない。「新施策」「事故・事象の多発」「世情に追いつかない給与体制」「ハラスメント環境」などから、各職場、各未加入者に「このままではいけない」という意識がさらに芽生えている。これは職場代表選を勝利で終え新規加入を迎えたパス職場の実践から教訓を得ることができる。これからもそういった不安を抱える未加入者に組合の必要性を説き、新規加入につなげることで組織力を高め、東労組成田支部からすべての組合員と家族の幸福とゆとりある労働環境を創出するべく邁進していこうではないか！

以上、宣言する。

2025年8月29日  
東日本旅客鉄道労働組合  
千葉地方本部成田支部  
第40回定期大会

第40回定期大会  
大会宣言を採択！

鉄道業の安全を確立させるため  
成田支部から運動を創り出そう！